資料　２

新市域振興ビジョンの改訂について

１．概要

「新市域振興ビジョン」は、地域振興に向けて地域の現状と課題を整理し、１０年先を見据えて、地域の特性や資源を生かしたまちづくりを実現するための方向性を示すものとして平成２６年８月に策定され、重点的に取り組む必要のある項目については、「推進計画」を作成し、計画的に事業を推進しているところです。

この度、推進計画期間の短期（平成２６～２９年度）が経過するにあたり、平成２８年４月に策定された「第１０次鳥取市総合計画」との整合性を図るものとし、当ビジョンの改訂を行います。

２．改訂に伴う作業の内容

（１）新市域振興ビジョンの修正

①第２編「５．地域別の現状と課題、めざす将来像」（Ｐ２２～２３）

②参考資料「１．地域の歴史、特性、資源」（Ｐ８４）

③その他必要な箇所

（２）推進計画の見直し

（案）

新市域振興ビジョン　用瀬地域の現状と課題、めざす将来像

①安全・安心のまちづくり

（１）防災対策の強化

今日の大規模化する自然災害や新たな危機に対し、住民の防災意識は高まっており、地区や集落単位での避難訓練や防災知識の習得等、地域住民が中心となった防災に対する取り組みを支援していく必要があります。

また、自治会・自主防災会及び総合支所が一体となって機能する防災・減災体制の強化に取り組みます。

（２）地域福祉の強化

地域住民にわかりやすく実感できる地域福祉の体制づくりとして、用瀬町社会福祉協議会を中心に「用瀬町福祉のまちづくり計画」が策定され、高齢者・障がい者のみなさんが安全・安心に暮らすことができる施策が実施されています。

今後も、地域の住民組織と連携を図り、地域福祉ネットワークを充実させ、包括的な見守り体制の強化が必要です。

②農林業の振興

本町の面積の大半を占める農地や森林は、生活環境の保全や山地災害の防止など多面的機能を有しており、これらを維持していくことの重要性が高まる一方で、中山間地域では人口減少や高齢化による農林業の後継者問題は深刻さを増しています。

今後も継続して、県等関係機関と連携を図りながら、林業団体等への支援をはじめ、担い手の育成・確保や、集落営農の組織化など経営の合理化・効率化を推進していきます。

③商工観光の振興

本町は、多くの登山愛好者が訪れる三角山・洗足山を有する「用瀬アルプス」や、赤波川渓谷おう穴群・中津美渓谷など、豊かで特色ある自然に恵まれています。

さらに、民俗文化の「用瀬のひな送り」に触れることのできる「流しびな行事」のほか、景石城跡・三角山神社などの貴重な歴史資産や、上方往来の風情を残す「用瀬宿の街並み」・瀬戸川の景観も、個性ある観光資源として活用していきます。

今後は、これら観光資源のガイド育成などにより、誘客の増加につなげ、地域に経済効果を波及させることが重要です。

また、町内の小規模事業所や誘致企業などに対しては、関係部署と連携しながら情報提供や相談体制など今後も継続して取り組みます。

④賑わいの創出

用瀬の豊かな自然や魅力ある歴史・文化などの地域資源を活用し、イベントや民泊事業などにより都市部との交流を進め、地域の賑わいを創出します。

また、少子高齢化の進行や人口減少に伴って増加傾向にある空き家等の有効活用、移住定住希望者への情報提供や相談体制などの支援の充実に、関係機関・団体と連携して取り組みます。

⑤歴史・文化の継承

古くから人々は、用瀬の豊かな自然景観の中で、独自の文化と歴史を築いてきました。

「景石城跡」などの貴重な史跡や、「江波の三番叟」・「用瀬のひな送り」に代表される民俗文化などを大切に保存し、継承していくことが重要です。

次代を担う子どもたちがふるさとを大切にする思いを持ち続けるため、これらかけがえのない歴史・文化を伝える取り組みを進めます。